

令和7年度 第4回高山市公共交通活性化協議会
議事録(要旨)

【概要】

日 時 : 令和8年2月17日(火) 10:00~11:00
会 場 : 高山市役所 本庁4階 特別会議室
出席者 : 別紙【出席者名簿】参照

【協議会説明】 大下事務局長(高山市都市計画課長)

・委員総数24名、うち、23名の方が出席、協議会規約により、本日の協議会は成立

【あいさつ】 上田会長(高山市副市長)

・前回の協議会で承認いただいた地域公共交通計画の評価と、令和6年10月から令和7年9月までに実施した事業評価を、本年1月に中部運輸局に提出した。評価結果は、次回の協議会で共有する。次年度以降の事業の推進や計画に反映しているので、引き続き皆様のご理解、ご協力を賜りたい。
・本日は令和8年度中に検討している公共交通の見直しについてお諮りする。

(1)議事

議第1号 公共交通の見直しについて

○議案(議第1号資料)に沿って事務局(都市計画課)より説明

下平委員 (岐阜運輸支局)	別紙2 匠バスの見直しについては、大分絞ったルート案という印象。特定の層に絞って乗せるという意図か。
事務局	別紙3 丹生川国府線の、停留所によって、予約の有無が混在するので利用が困難そうだが、どういった基準を想定されているのか。
丸山委員 (高山市社会福祉協議会)	公共交通で来られる方や、ホテルに車を停めた方が古い町並みや中橋といった観光地へ向かうルートを最短で結ぶことが一番の目的。八幡宮などの地域まで含むと1回の運行時間が延びる。今回は、最短時間としてスマホの地図アプリに選んでもらえることに主眼を置いてルートを設定している。
事務局	丹生川国府線については、主要な道路から大きく外れているところは予約制にし、予約がなければ主要な道路を走る。主要な道路沿いは定時定路線。
事務局	別紙1 中山町がない理由は、森下町は比較的商業施設に近いが、あえて入れた理由は、 最寄りの停留所を経由するということで、既に運行している路線との連絡をどのように想定しているか。
事務局	中山町は開発から比較的新しい地域で、既に路線バスが走っている地域であることから外している。他の団地は昭和40年、50年代に開発され、高齢化している地域として選んだ。 森下町は、団地ではないが、比較的住宅が集まっていて、比較的高齢化が進んだバスが少ない地域。 既存の路線との連絡は今後の検討事項。基本的には、最寄りの商業施設に行くことをメインに考えている。乗り継ぎもあわせて検討していきたい。

保谷委員 (みなみまちづくり協議会)	別紙1 緑ヶ丘・上岡本ルート。緑ヶ丘町も松原町も、以前より町内会長から、移動の足がないという話が出てきている。イメージとして、のらマイカーが行くということか。 緑ヶ丘町、松原町は、神社までかなり距離があり、親が子どもを送っていかねばならないなど、不便なため、神社との付き合いをやめたくらいのエリアのため、そのあたりの方は喜ばれると思う。
事務局	ワゴン車が団地内に入っていくイメージ。
佐古委員 (岐阜県タクシー協会飛騨支部)	1年の試行運行は非常によろしいことだと思う。ただ、タクシー事業者からすると、オレンジの枠より大きいエリアを運行されると、タクシーの利用が少なくなる懸念がある。このエリアの利便性が上がるとタクシーの利用が減る。今後どういった形が一番良いのか、試験運行も踏まえて、皆様方と議論していければと思う。
事務局	情報共有しながら進めていきたい。
上田会長 事務局	別紙1 路線は、のらマイカーの路線として運行するのか。 現在ののらマイカー東西南北線とは別の、新たな路線として位置づけ。ただし試験的運行なので、今後、本格運用になった場合については、どういった形で整理していくのかは考える必要がある。
長瀬委員 (市商連)	匠バスの東西南北線は廃止になるのか。匠バスを利用した際の駐車場の割引きなど、SNSでサービスをうたっているものがあり、制度が変わるならそれも変えないといけないので、早めに教えてほしい。
事務局	匠バス東西南北線は廃止、1路線となる。早めに共有し、事前に周知できるようにしたい。
加藤教授 (名古屋大学大学院)	別紙1 「数十年」の定義が不明確。高齢化率が高いとか、開発から何年経ったなど、明確にした方がよい。既存ののらマイカーで対応できるところは削るなど、明確に、試験的運行をする地域の定義をした方がよい。 また、ワゴン車で運行する必要があるか。タクシー車両でも充分ではないか。試験運行であれば、乗客が多ければ別の対応もあり得るので、小さく始めて大きくするという感じが良いのではないか。 バス停留所の置き方も大事。こういうのを使いたい人は家からあまり歩くのができない方。坂などのこともあり、どこに停留所を置くかはよく考えないといけない。実験の間に考えることかもしれない。 タクシーとの関係は大事。予約が必要なやり方もありうる。バスに近い形で運行するのもかもしれないが、明確にする必要がある。 別紙2 匠バス利用者の市営駐車場割引等は、まちなみバスが引き継ぐことが適切ではないか。まちなみバスは、周辺の駐車場に停めて中心に行くのに利用できる。 匠バスの新しい路線について。高山駅での乗り場が決まっているか。バスセンターに入ると時間がかかるし混んでいるので、錯綜する。高山駅前の降車場で乗降した方がよいのではないか。松本市の例もあり、近いところに行くのは駅に近いところで乗降するのが定石ではないか。回り方は、時計回りか反時計回りかも検討が必要。 まちなみバスを白山口に入れる必要があるか。白山口の利便性が低いのではないか。このタイミングで変えるべきではないか。 別紙3 経路を変えると、駅から病院に行く人が混乱する。色々なところへ行けるのは良いが、乗り間違いも起こりやすい。新しい経路に需要が多いというのでなければ、あまり良い策ではない気がする。そもそも現状の公設市場経由の経路は、なぜここを経由することにしたのかを確認してから判断する必要がある。

	値上げも考えているなら、濃飛バスの路線も含めて、同じときに全部整理する必要がある。そうしないと余計混乱する。乗るバスによって同じところへ行くのにも値段が違うといったことが起きないようにする。 たかね号は以前からフルデマンドにすべきと言ってきた。遅きに失している。 高齢者への支援拡充。見直す必要があるのは賛同。65歳で良いのかどうかは議論があるところ。 1度決めるとなかなか変えられないので、議論をきちんとして決めていくべき。
事務局	委員の皆さんからいただいたご意見を参考にしながら、詳細を詰めた上でまた改めて6月の協議会にお諮りする。

⇒議第1号について、大枠の方向性は良し、運行ダイヤ、路線、停留所等の運行に関する詳細については、今後また詰めさせていただき改めて協議

【その他】 大下事務局長（高山市都市計画課長）

・次回は6月の開催を予定。

以 上